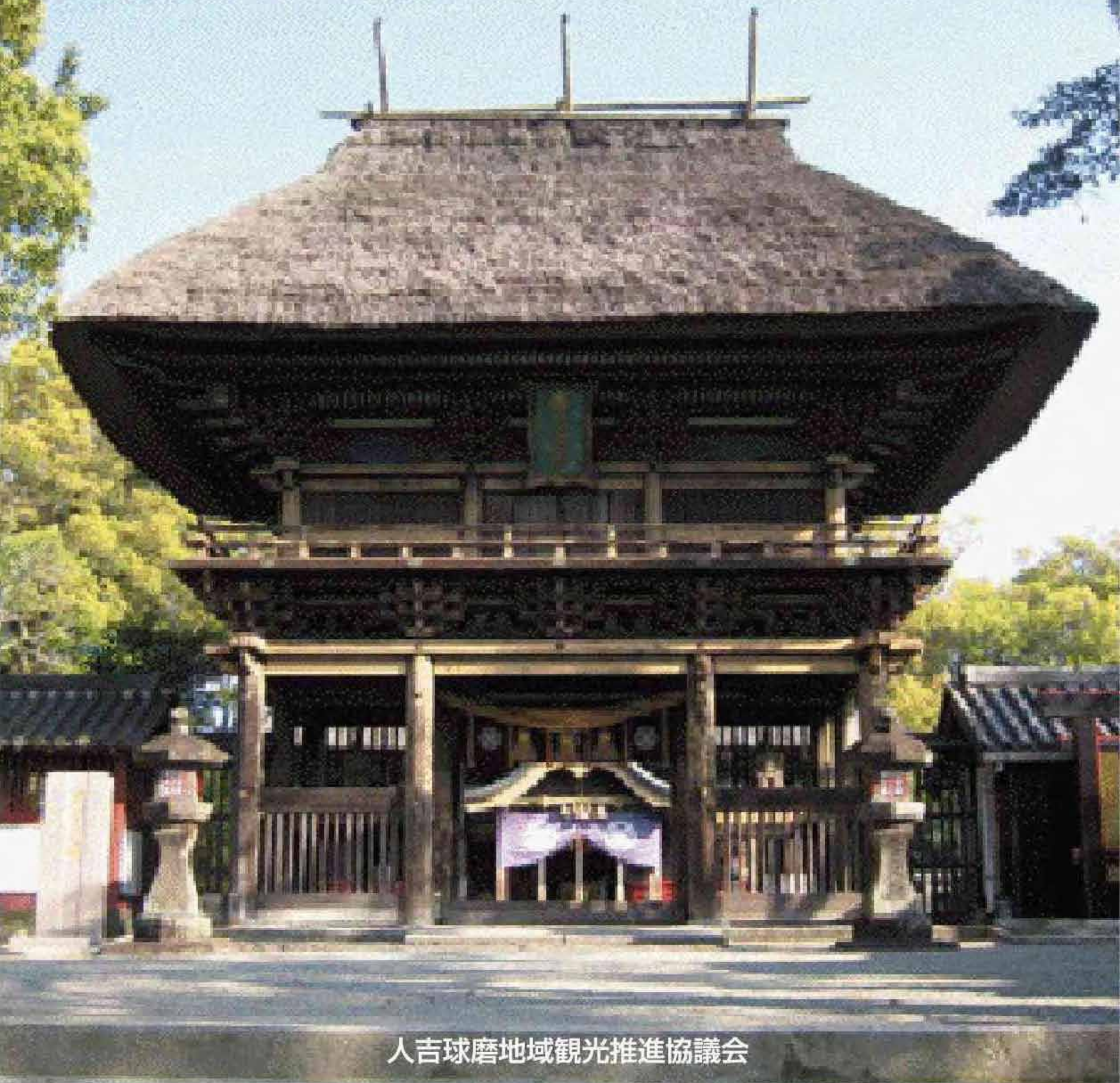


相良歴史回廊

人吉球磨の寺社建築と三十三観音



国指定重要文化財 建造物

やまだだいおう
山田大王神社本殿拝殿及び神供所 28

山江村山田甲

相良氏以前の山田村の地頭の平川次郎藤高を祀る。本殿は茅葺の覆屋のなかに建つ三間社流造りで、室町時代の天文15年(1546)相良晴廣によって造営、本殿覆屋はその後の安永10年(1781)に造られた。平成6年から3年間かけて全面解体修理され、昔の姿を現している。



国宝 建造物

あおいあそ
青井阿蘇神社社殿 1

人吉市上青井町

大同元年(806)、現在の地に創建。祭神は「阿蘇神社」の名があるように神武天皇の皇孫・健甕龍命を主神として、四神を祀る。阿蘇神社の守護神の加護のもとに人吉球磨地方の開拓、営み、心のよりどころで、「球磨の六調子」に「球磨の名所は青井さんの御門」と唄われるほど古くから親しまれている。現在の社殿群は相良家20代人吉藩初代藩主・相良長毎が慶長15年(1610)から4年をかけて造営した。棟札、銘札を見ると



現在まで約400年間に最低14回の修理が営まれている。特徴は屋根の棟が高く勾配が急な茅葺屋根。全体の基調は黒漆。細部の木組みは赤漆。彫刻や模様は極彩色。当時漆は、現在以上に貴

重で、漆一升金一升といわれていたことからみて、相良藩の尊崇の念がうかがえる。楼門に掲げられた「青井大明神」の額は相良22代から奉納された約340年前のものである。

平成20年(2008)に建造物5棟(本殿、廊、幣殿、拝殿、楼門)と附(棟札1枚、銘札5枚)が県内に現存する文化財としては初の国宝となる。



人吉市

国宝1・国指定2・県指定2・市指定1

球磨村

県指定1・村指定1

山江村

国指定1・村指定3



村指定有形文化財 建造物
まえ
万江阿蘇神社本殿及び覆屋一棟 30

山江村万江甲

享保13年(1728年)11月にも万江村の領主の万江氏が建造した。球磨川の支流万江川が前方に流れ、後方に山を控えた境内は中世の趣を今に伝えている。11月10日に例大祭が開催され、神楽などの舞のなか、五穀豊饒が祈られる。

万江阿蘇神社の鳥居前、万江川堤防沿いのイチョウ(雄)は樹勢盛んで幹周り4.3m、樹高17.8m、樹齢は300年は経っている。幹周りに乳頭(コブ)が出ており、母乳が出ない人のお詣りするとご利益があるという。



村指定有形文化財 建造物
まつたに
万江阿蘇神社摂社・稲荷神社一棟
山江村万江甲

村指定有形文化財 建造物

さいふくじ
西福寺跡阿弥陀堂 29

山江村万江甲

西福寺は万江村地頭万江氏によって建立された。もと禅宗寺院だったが、のちに古義真言宗に転じた。阿弥陀堂は、正面三間、側面三間、入母屋造りで、もとは寄棟造りで茅葺き屋根だった。堂内には、永正2年(1505年)、永正15年(1518年)銘の銅製十一面観音菩薩坐像懸仏が2面、応永6年(1399年)の鉄製鰐口がある。境内には、室町から江戸時代までの無縫塔・五輪塔・板碑などもみられる。



村指定有形文化財 建造物
こうつたに
松谷阿蘇神社本殿 32

球磨村三ヶ浦

松谷地区の小台地にあり覆屋にまもられた本殿は建築当初のままの姿を留めている。中世の建築様式を遺した本殿には年代を思わせる数多くの神像が安置され、村人たちの信仰の深さがうかがえる。



市指定有形文化財 建造物
ちようふくじ
長福寺阿弥陀堂 6

人吉市下原田町

室町時代の原田地頭の豊永家の菩提寺として創建された(現在は廃寺)。阿弥陀堂はもともと3間四方の茅葺きの堂であったが、現在は奥行き2間に縮小され、屋根も瓦葺となっている。天文7年(1538)の建立と推定され、人吉市内で最古の建物である。



県指定重要文化財 建造物
こうのせ
神瀬住吉神社本殿
拝殿・覆屋・鳥居 31

球磨村神瀬

大同元年(806)創立と云われ、もとは川内川と球磨川の合流点付近にあったようだが、洪水で流された後、御神体が発見された高音の瀬を望む高台に社殿を造営。この故事が神瀬の名の由来と言われている。



県指定重要文化財 建造物
いのくち
井口八幡神社神殿 4

人吉市井ノ口町

神殿は老神神社と同じように覆屋で覆われている。創建は後深草天皇の宝治元年(1247)2代・相良頼親が親請。現在の社殿は元禄12年(1699)相良頼喬が火災のあと再興。覆屋のため、彩色が残り、当時の面影を伝えている。祭神は鶴岡八幡宮と同一で、応神天皇、神功皇后。境内には伊勢宮、阿弥陀堂、薬師堂、毘沙門堂などが並ぶ。



県指定重要文化財 建造物
だいしんじ
大信寺地蔵堂 5

人吉市南泉田町

寛文3年(1663)に創建された浄土宗寺院。境内の地蔵堂はそれより早く正保2年(1645)の創立とされている。後に瓦葺きに改修。宝形造りの土間式の造り。堂内の地蔵菩薩立像は、南北朝期の相良家7代・前統の影像とされ地蔵堂とともに県重要文化財である。本堂の阿弥陀三尊は鎌倉時代のもの。

国指定重要文化財 建造物

いわやくまのぞ
岩屋熊野座神社・中央殿
左殿・右殿・拝殿・覆屋・鳥居 3

人吉市東間上町



古くは岩屋権現とも称し、祭神は和歌山県の熊野神社と同じ熊野三山で、相良氏によってたびたび修理されている。覆屋内に並立している3棟の本殿は、室町時代から戦国時代末の建造と推定される。本殿覆屋・拝殿は享保12年(1727)の建造。参道入り口の鳥居は、元禄14年(1701)建立で、人吉球磨地域唯一の権現造りで、最古の石鳥居である。



国指定重要文化財 建造物

おいかみ
老神神社本殿拝殿及び神供所 2

人吉市老神町

創建は大同二年(807)とされている。相良家代々の産土神として崇められてきた。祭神は霧島神宮と同じニギノミコト、ヒコホホデミノミコト、コノハナサクヤヒメノミコトはじめ六神。現在の本殿は寛永5年(1628)に相良長毎が再建したもので、内外とも漆塗とし、彫刻に彩飾を施したり、欄間の花鳥薄肉彫りなど、この地方の江戸時代前期の神社本殿を代表するものとして価値が高い。



県指定重要文化財
建築物

すえすわ
須恵諏訪神社本殿及び宮殿 34

あさぎり町須恵

本殿は、桁行3.60m、梁間2.35m、板葺で二間社流造。天文21年(1552)頃に建立と考えられている。覆屋(瓦葺)で本殿を覆うのが特徴で、本殿の中には木造の宮殿があり、寄棟造りの板葺である。棟の左右に鳳凰があり、唐様建築に多い手法を残している。

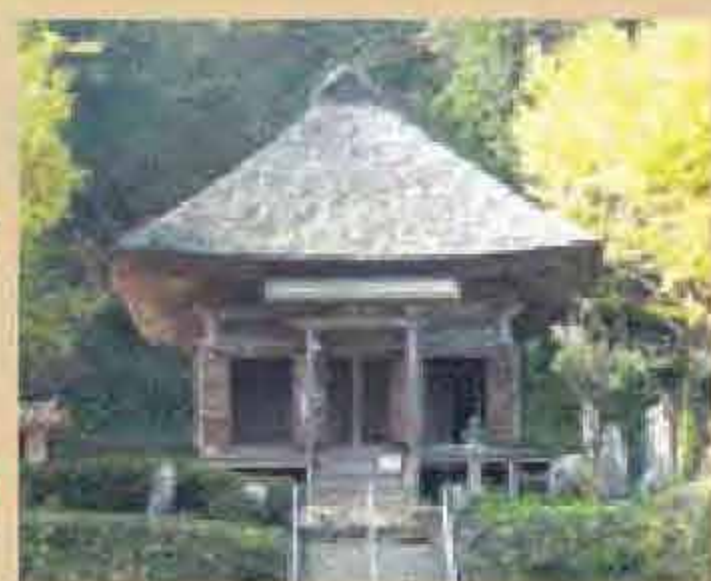
県指定重要文化財
建築物

みやはら
宮原観音堂
(厨子共) 33

あさぎり町岡原北

観音堂は、正面約5.9m、側面約7.9mの大きさで、正面3間に両開きの棧唐戸がついている。

桃山時代の建立といわれているが、円柱や軒回りの組み物で、木鼻の彫刻や外陣の屋根などから室町時代に遡るという説もある。観音堂と厨子は県重要文化財指定されている。安産にご利益があると参る人が多い。相良33観音29番札所。



国指定重要文化財 建築物
としますがわら
十島菅原神社 24

相良村柳瀬

菅原神社は広い平野の中、相良村を代表する神社。名のごとく菅原道真を祀る。創建は弘安年間(1278~1288)と伝えられている。池の上に立つ本殿は、人吉藩初代藩主相良長毎(頼房)が天正17年(1589)奉納した。十島の語源は境内に広い池があり、十の島があったところから由来している。

本殿は老神神社、井口八幡宮と同じく覆屋で覆われている。拝殿も奥行きが深く、建築の細部にも繊細な意匠が見られるなどの特色が表れている。



相良村

国指定1・県指定1・村指定2

錦町

町指定3

あさぎり町

県指定2・町指定6



町指定有形文化財 建築物
かみながさとくもんは

上永里雲羽神社社殿 37

あさぎり町上西

社殿は、三間社流造で屋根は寄棟造の茅葺。創建は、永里城主永里彦次郎が建てたと伝えられているが定かでない。現在の本殿は寛永13年(1636)に建立したもの。向背部頭貫の3間にあるカエル股はめずらしい。ここには、天狗様の話と天から落ちた雷様の話がある。



町指定有形文化財 建築物
あぎとき

秋時諏訪神社社殿 36

あさぎり町上南

鞘葺流造りの社殿。上村四郎頼村の建立ともいうが本当のところは不明。天正14年(1586)に火災にあい、翌年再興。慶長3年(1599)に相良清兵衛が改造した。文化12年(1815)頃に造り替えている。平成16年度に覆屋の屋根材葺き替えをおこなっている。相良33観音30番札所。



町指定有形文化財 建築物
たにみずやくし

谷水薬師尊堂一棟並びに仁王門一棟 35

あさぎり町上南

日本七薬師の一つ。奈良時代の聖武天皇や平安時代の桓武天皇頃の創建伝説があるが室町時代の開基が有力。明治30年(1897)金堂の薬師堂は火災で全焼し、2年後に改築竣工。焼けた本尊から黄金の胎内仏が発見された。病気平癒のため紙つぶてを口で嚼んで仁王像に投げ病の所に付着させる奇妙な慣習がある。



村指定有形文化財 建築物
ようら

四浦阿蘇神社本殿 27

相良村四浦

祭神・建磐龍命以下阿蘇12神及び合併神社、山神・阿蘇八北山2社。初神集落の東にあり、かつては旧四浦村村社として崇拝される。創建は不明だが、「球磨神社記」によれば、天正2年(1574)に再興されたとある。境内の灯籠は安永7年(1778)、摂社には10体の神像と4体の朽仏が祀られている。



村指定有形文化財 建築物
やんもと(やまもと)

山本神社(山本権現社)本殿 26

相良村深水

祭神は、安閑天皇となっているが、修験者たちにより、蔵王権現が祀られていたと思われる。標記により天正元年(1573年)に建立されたことがわかる。創建年代は平安時代。本殿は、三間社流造、鉄板葺きで、元は覆屋があったことが礎石が残っていることによってわかる。



県指定重要文化財 建築物
いざお

井沢権現社中央殿・右脇殿
左脇殿・右摂社・左摂社 25

相良村柳瀬

祭神は、伊邪那美尊、速玉男神、事解男命。この神社の祭りは、相良氏入国以前からつづいているといわれている。また、ここに祀られている役行者像は、天文8年(1539年)に造られ、修験僧がモデルで、青鬼と赤鬼の小さな像を両脇に従えている。



町指定有形文化財 建築物
さぎす

鷲巢の地蔵堂 40

あさぎり町谷深田西

この地蔵堂は江戸時代初期に建立とみられ、人吉球磨地方に数多く残る典型的な三間堂のひとつである。桁行3間、梁間2間、寄棟造で、入口は平側にある。仏壇は出桁(だしげた)造りで、頭貫と台輪の部材で固め木鼻を付け、軒は、桁・梁を持出して腕木としている。



町指定有形文化財 建築物
しょうふくじ

勝福寺仁王門(毘沙門堂) 39

あさぎり町深田北

勝福寺は平重盛の菩提のために建立されたと伝えられる。明治初期、廃寺後に本尊を安置する荒茂毘沙門堂として改造されたが、仁王門としての形はよく残る。当初、鎌倉時代中〜後期頃に建立されたとみられ、江戸時代中期に修理、明治時代に参道をはずして現在地に移設。室町時代の材木を利用し、禅宗様(唐様)の特徴を残している。



町指定有形文化財 建築物
やまのうえ

山上八幡神社社殿 38

あさぎり町上東

本殿は一間社流造で茅葺き屋根。室町時代、上村氏滅亡後、東門寺の僧勢鏝が死後怨霊となり恨みにより皆越家に祟り、その霊を鎮めるため皆越氏が皆越小城に建立。天正5年(1577)相良義陽公の夢想により黒木原に遷座建立したという。



町指定有形文化財 建築物
とおかいちだいにちどう

十日市大日堂 9

錦町木上

十日市集落にあるこじんまりとした堂。中央に端正な姿の大日如来像(57.3cm)が安置されている。棟札によれば、元禄5年(1822)に堂再建とある。堂裏手の三つの大きな五輪塔のうちひとつには大永3年(1523)の銘がある。



町指定有形文化財 建築物
このもと(きのもと)

木本神社 8

錦町木上

木上の地頭平川義高が築いた中世城跡岩城のなかにある。永正5年(1508)相良13代長毎が市房山神宮より勧請し、建立した。本殿、一間社流造で拝殿の桁行3間、梁間3間を引き伸ばし覆屋としている。球磨地方独特の袖部や木鼻・拳鼻など中世の社寺建築様式を色濃く残している。



町指定有形文化財 建築物
つちや

土屋観音堂 7

錦町一武

文安5年(1448)、人吉城主相良亮頼は、上相良の相良頼親と頼仙の兄弟に襲われて、密かに薩摩藩に逃げた。その折子供をした永国寺の大蟲超虎は、亮頼死後、人吉に戻り一乗寺を建立した。明治維新後廃寺となり、寺跡に観音堂だけが残った。相良33観音31番札所。



国指定重要文化財 建造物
しょうぜんいん
生善院観音堂・附厨子一基 22

水上村岩野
言い伝えによると、普門寺盛誓法印が謀反の疑いにより非業の死を遂げたことから、母玖月善女は相良氏を呪い、愛猫「玉垂」とともに茂間ヶ崎淵に身を投じた。その後、この猫が相良氏のもとに化けて出たため、この猫の供養も兼ねて生善院が建てられたという。この化け猫の伝説により生善院は通称「猫寺」と呼ばれている。
観音堂は寛永2年(1625)人吉藩初代藩主相良長毎により造られた。桁行3間、梁間3間の正方形の寄棟造り。茅ぶき。内部の厨子には阿弥陀如来像と千手観音が祀られている。厨子の造りはきらびやかで重厚。極彩色の厨子の中に千手観音が祀られている。相良33観音24番札所。



村指定有形文化財 建造物
いわのきりしま
岩野霧島神社本殿 23

水上村岩野
創立・沿革は「麻郡神社記」によると、霧島神社の観請で、大同4年(809年)。建物については延宝7年(1679年)に本殿修復、拝殿造替の記述がある。この本殿の建立時期は不明であるが、内部壁板の落書きから弘治4年(1558)には既に建てられていたことがわかる。

町指定有形文化財 建造物
おだいし
御大師堂 19

湯前町下里



茅葺、寄棟造の建物は年代的には江戸時代前期の建立と思われる。御大師堂にある木造弘法大師坐像は、応永7年(1400)の作で県指定重要文化財で華麗な厨子の中に安置されている。



町指定有形文化財 建造物
ふもんじ
普門寺観音堂 20

湯前町下城

当初は水上村にあり、市房神社の別当寺として、修験道が行われていた。現在の建物は、明治36年(1903)に再建されたようである。小さな観音堂だが、樹齢数百年の老杉がそびえている。千手、馬頭、如意輪など五観音が祀られている。相良33観音25番札所。



町指定有形文化財 建造物
ほうだじ
宝陀寺観音堂 21

湯前町宝陀寺

室町中期頃滅んだとされる豪族、久米氏の寺だったといわれる。本尊の木造十一面観音立像は鎌倉後期の作である。像高は179cm。腰の病、安産にご利益があると言われる。無事に出産した人は赤ちゃんと共に礼参りをする。相良33観音27番札所。



国指定重要文化財 建造物
みょうどうじ
明導寺阿弥陀堂 17

湯前町瀬戸口

阿弥陀堂は熊本県下で一番古い木造建築で、鎌倉期の貞応年間(1222～1224)の創建と伝えられており、鎌倉仏教文化を代表する古寺である。分厚い茅葺の屋根、3間正方の芸術的建造物である。

確たる文書はないが、堂内阿弥陀三尊像の脇侍観音に寛喜元年(1229)の銘があり、その頃かと思われる。本尊の阿弥陀如来坐像は、藤原様式をとどめ豊満で、重量感に溢れている。立像の両脇侍は穏健雄大、鎌倉様式を備えた写実的曲線美を見せ、本尊とともに国指定重要文化財に指定されている。



国指定重要文化財 建造物
はっしょうじ
八勝寺阿弥陀堂 18

湯前町長谷場

町内馬場地区にある15世紀に再興された寺院。国指定重要文化財の阿弥陀堂は15世紀後期の建物で、堂内の県指定重要文化財の阿弥陀如来及び両脇侍立像は、延徳2年(1490)の作である。

国指定重要文化財 建造物
しょうれんじ
青蓮寺阿弥陀堂 10

多良木町黒肥地

県下で最大規模といわれる阿弥陀堂。その雄大な御堂は東多良木の駅を降りると、すぐに見えてくる。青蓮寺は真言宗の古刹。

永仁3年(1295)に上相良3代頼宗が、初代頼景公菩提のため創建したものである。頼景の正室・青蓮尼の位牌所として青蓮寺と名づけられた。

阿弥陀堂は鎌倉時代の唐様の様式を伝える荘重な建物。茅葺の四柱造りで、柱は丸柱。内部は外陣と内陣に分れ、阿弥陀三尊が鎮まる。裏手にある五輪の塔群は、上相良氏と歴代住職の墓地。このほか立派な焼酎墓も建っている。



青蓮寺阿弥陀三尊像



町指定有形文化財 建造物
なかやま
中山観音堂 13

多良木町奥野

本尊は聖観音立像で、脇の四天王とともに町の重要文化財。人吉藩家老・井口美辰(石見)が晩年に住んでいたところで、三十三観音の御詠歌はここで書き残されたと伝えられる。鐘を鳴らす紐(さらし)を腹帯にすると安産といわれる。相良33観音28番札所。



町指定有形文化財 建造物
すわ
諏訪神社社殿 12

多良木町多良木

諏訪神社の創立は、正和4年(1315)頃で永禄5年(1562)、代官藤原長友、同満房丸等が現在の地に遷宮して再興したものと伝えられる。社殿6坪、瓦葺、建築様式は神明造りの屋根に反をつけ、正面平の屋根を前に伸して向拝を設けた、いわゆる流造りである。



町指定有形文化財 建造物
しらとり
白鳥神社本殿 16

多良木町黒肥地

鎌倉時代から鎮座の記録がある。現在の神社は切妻造り、江戸時代前期の建築と推定される。社殿内に残された武装男神立像2軀はツガの一木造で、平安時代後期の珍しい形状の神像である。



町指定有形文化財 建造物
つぎししよ
槻木四所神社社殿 15

多良木町槻木

紀州伊都郡高野山円生明神同体と伝えられ、伊勢、春日、三輪、住吉の四所に祀られているため四所神社と呼ばれている。社殿全体は、瓦葺の鞘堂に覆われている。小社であるが鞘堂によって軸部、組物・破風、懸魚等完全に保存されて室町時代末期の様式を知り得るものとして貴重な遺構である。

多良木町

国指定1・県指定1・町指定5

湯前町

国指定2・町指定3

水上村

国指定1・村指定1



県指定重要文化財 建造物
おうぐ
王宮神社楼門 11

多良木町黒肥地

現存する楼門は応永23年(1416)相良頼久の建立と伝えられる。楼門の形式は三間一戸、寄棟造、茅葺で禅宗様特有の造りになっている。県下最古の唐様の楼門として貴重な遺構である。



町指定有形文化財 建造物
くめはるより
久米治頼神社社殿 14

多良木町久米

相良治頼及び治頼母堂の霊社である。永禄9年(1566)の草創で地頭藤原頼秀及び宗方氏範等が建立。その後元亀元年(1570)に頼秀女の祈願として頼秀、同満千代並びに頼家、宗方氏頼が本殿拝殿を造営した。



相良三十三観音巡り

深い山々に囲まれた球磨盆地に息づく豊かな風土・人吉球磨。

この人吉球磨には観音霊場

が点在し、今でも地元の方々に大切に守られている三十三観音があります。観音さんごとに異なる言い伝えが残って

いたり、観音堂など当時の優れた建築技術も一見の価値があります。春と秋のお彼岸にはすべての観音堂を二斉開帳しています。

観音さまの霊場巡りには三十三という数字がついて廻ります。実はこの三十三という数字、観音さまが衆生を救うため、その人に合わせ、三十三の姿に変化して現われ仏法を説くということから来ているとされています。その姿は仏陀、梵天、尼、童女身、阿修羅を始

めとする八部衆などさまざまです。もともとは三十三というのには象徴的な数で、変化される数は数限りないとも言われています。

観音めぐりはその変幻自在な観音さまの現世での慈悲にあやかうと始まったとされています。

春秋の彼岸には集落の人が御堂に集い、巡礼の人に手づくりの漬物や煮しめ、(おにぎりもある)などを振る舞うのが人吉球磨地方の特色です。ど

れも心こめた手づくり、頂きながら観音さまのゆかりやご利益の話に花が咲きます。こんな心の交流は他地方ではあまり見られない。美しい風景です。お接待を頂いた時は、お茶代としてそとと百円玉を置いていくのがマナー、礼儀とされていることも知っておくとよいでしょう。おいしい球磨のお茶の香りに心も癒されます。

誌上 三十三観音 拝観



一番 清水観音
(人吉市願成寺町)

二番 中尾観音
(人吉市浪床町)

三番 矢瀬が津留観音
(人吉市西間上町)

四番 三田原観音
(人吉市下戸越町)

五番 鶴口観音
(球磨村渡)



六番 嵯峨里観音
(人吉市下原田町)

七番 石室観音
(人吉市下原田町)

八番 湯の元観音
(人吉市温泉町)

九番 村山観音
(人吉市城本町)

十番 瀬原観音
(人吉市九日町)

十一番 芦原観音
(人吉市瓦屋町)



十二番 合戦嶺観音
(山江村山田)

十三番 観音寺観音
(人吉市願成寺町)

十四番 十島観音
(相良村柳瀬十島)

十五番 蓼毛観音
(相良村柳瀬新村)

十六番 深水観音
(相良村深水)

十七番 上園観音
(相良村川辺)



十八番 廻観音
(相良村川辺)

十九番 内山観音
(あさぎり町深田内山)

二十番 植深田観音
(あさぎり町深田宮坂)

二十一番 永峰観音
(あさぎり町深田永峰)

二十二番 上手観音
(あさぎり町須恵上手)

二十三番 寛井観音
(あさぎり町須恵寛井)



二十四番 栖山観音
(多良木町黒肥地栖山)

二十五番 生善院観音
(水上村岩野)

二十六番 龍泉寺観音
(水上村岩野)

二十七番 普門寺観音
(湯前町下城)

二十八番 上里の町観音
(湯前町上里)

二十九番 宝陀寺観音
(湯前町東方)



三十番 秋時観音
(あさぎり町上秋時)

三十一番 土屋観音
(錦町一武土屋)

三十二番 新宮寺六観音
(錦町西)

三十三番 赤池観音
(人吉市赤池水無町)

【モデルコース】 ☆半日コース ★一日コース（あくまでも目安です。）

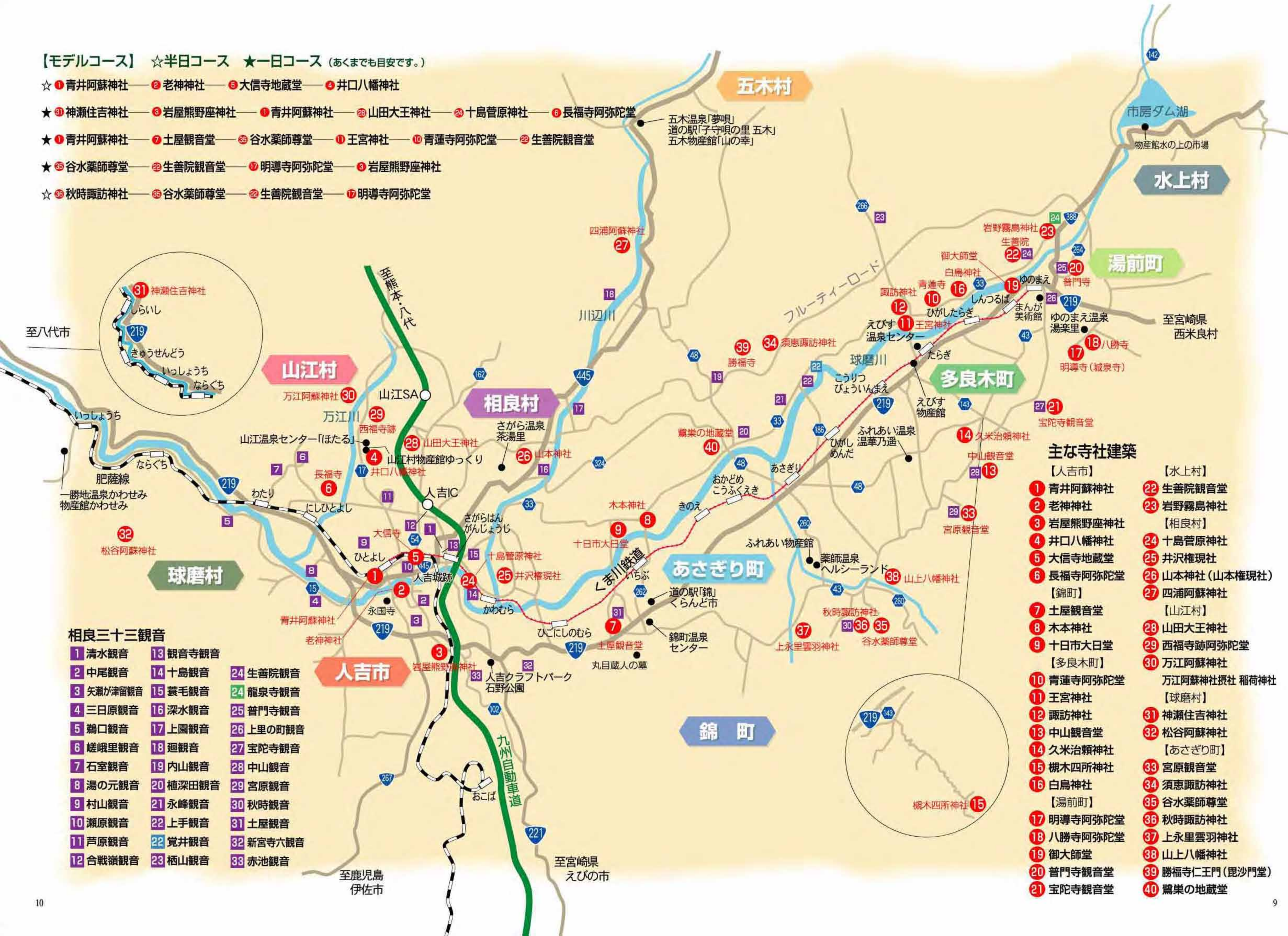
☆ 1 青井阿蘇神社 — 2 老神神社 — 3 大信寺地蔵堂 — 4 井口八幡神社

★ 1 神瀬住吉神社 — 3 岩屋熊野座神社 — 1 青井阿蘇神社 — 25 山田大王神社 — 24 十島菅原神社 — 6 長福寺阿弥陀堂

★ 1 青井阿蘇神社 — 7 土屋観音堂 — 35 谷水薬師尊堂 — 11 王宮神社 — 10 青蓮寺阿弥陀堂 — 22 生善院観音堂

★ 35 谷水薬師尊堂 — 22 生善院観音堂 — 17 明導寺阿弥陀堂 — 3 岩屋熊野座神社

☆ 38 秋時諏訪神社 — 35 谷水薬師尊堂 — 22 生善院観音堂 — 17 明導寺阿弥陀堂



主な寺社建築

【人吉市】

- 1 青井阿蘇神社
- 2 老神神社
- 3 岩屋熊野座神社
- 4 井口八幡神社
- 5 大信寺地蔵堂
- 6 長福寺阿弥陀堂
- 7 土屋観音堂
- 8 木本神社
- 9 十日市大日堂

【錦町】

- 10 青蓮寺阿弥陀堂
- 11 王宮神社
- 12 諏訪神社
- 13 中山観音堂
- 14 久米治頼神社
- 15 梶木四所神社
- 16 白鳥神社

【湯前町】

- 17 明導寺阿弥陀堂
- 18 八勝寺阿弥陀堂
- 19 御大師堂
- 20 普門寺観音堂
- 21 宝陀寺観音堂

【水上村】

- 22 生善院観音堂
- 23 岩野霧島神社

【相良村】

- 24 十島菅原神社
- 25 井沢権現社
- 26 山本神社（山本権現社）
- 27 四浦阿蘇神社

【山江村】

- 28 山田大王神社
- 29 西福寺阿弥陀堂

【球磨村】

- 30 万江阿蘇神社
- 31 神瀬住吉神社
- 32 松谷阿蘇神社

【あさぎり町】

- 33 宮原観音堂
- 34 須恵諏訪神社
- 35 谷水薬師尊堂
- 36 秋時諏訪神社
- 37 上永里雲羽神社
- 38 山上八幡神社
- 39 勝福寺仁王門（毘沙門堂）
- 40 鷲巢の地蔵堂

相良三十三観音

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 1 清水観音 | 13 観音寺観音 | 24 生善院観音 |
| 2 中尾観音 | 14 十島観音 | 24 龍泉寺観音 |
| 3 矢瀬が津留観音 | 15 養毛観音 | 25 普門寺観音 |
| 4 三日原観音 | 16 深水観音 | 26 上里の町観音 |
| 5 鶴口観音 | 17 上園観音 | 27 宝陀寺観音 |
| 6 嵯峨里観音 | 18 廻観音 | 28 中山観音 |
| 7 石室観音 | 19 内山観音 | 29 宮原観音 |
| 8 湯の元観音 | 20 植深田観音 | 30 秋時観音 |
| 9 村山観音 | 21 永峰観音 | 31 土屋観音 |
| 10 瀬原観音 | 22 上手観音 | 32 新宮寺六観音 |
| 11 芦原観音 | 22 覚井観音 | 33 赤池観音 |
| 12 合戦嶺観音 | 23 栖山観音 | |



十九番札所・内山観音



人吉城跡



青井阿蘇神社・楼門

交通アクセス

高速バス

博多駅交通センター⇒人吉IC (約2時間40分)
 熊本交通センター⇒人吉産交(約1時間50分)
 宮崎駅⇒人吉IC (約1時間40分)
 鹿児島空港⇒人吉産交(約1時間)

JR

熊本駅⇒人吉駅(約1時間30分)
 博多駅⇒人吉駅(約2時間44分)
 鹿児島中央駅⇒人吉駅(約2時間10分)

高速道路

福岡IC⇒人吉IC(約2時間10分)
 熊本IC⇒人吉IC(約1時間)
 宮崎IC⇒人吉IC(約1時間10分)
 鹿児島IC⇒人吉IC(約1時間10分)



人吉球磨地域観光推進協議会

〒868-8503 人吉市西間下町86-1
 (熊本県球磨地域振興局総務振興課内)

TEL 0966-24-4113 FAX 0966-24-5761

<http://www.pref.kumamoto.jp/site/kuma-hp/>